

学期 / Semester	2016年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 4
開講期間 / Class period	2016/04/06 ~ 2016/07/25		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20160587036904	科目番号 / Subject code	05870369
科目ナンバリングコード / Numbering Code	GEMB 12311_006		
授業科目名 / Subject	教育と社会 (教育相談) / Educational counseling		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	田山 淳 / Tayama Jiyun, 及川 大地 / Oikawa Daichi, BERNICK PETER JOHN / Bernick Peter John, 西郷 達雄 / Tatu Saigou, 小川 さやか / Sayaka Ogawa		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	田山 淳 / Tayama Jiyun		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	田山 淳 / Tayama Jiyun, BERNICK PETER JOHN / Bernick Peter John, 西郷 達雄 / Tatu Saigou, 小川 さやか / Sayaka Ogawa		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目, 教職に関する科目		
対象年次 / Year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟22 / RoomA-22		
対象学生 (クラス等) / Object Student	2年生		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	j.tayama@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Laboratory			
担当教員TEL / Tel			
担当教員オフィスアワー / Office hours			
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	本授業では、教育相談の理論や歴史を中心とした基礎的知識を学習する。基礎的知識に加え、教育現場等で必要な相談に関する技法をいくつか学習する。		
授業到達目標 / Goal	個々の児童・生徒の悩みに対応できる知識とスキルを身につける。		
授業方法 (学習指導法) / Method	講義形式 (一部実習形式)		
授業内容 / Class outline/Con	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育相談の歴史と意義 2. 学校における教育相談体制と相談の進め方 3. 児童・生徒の発達に応じた教育相談 4. 児童・生徒が抱える心の問題の種類 5. 心の問題を明らかにする方法 (1) 6. 心の問題を明らかにする方法 (2) 7. 来談者中心カウンセリングについて (1) 8. 来談者中心カウンセリングについて (2) 9. 行動療法・行動カウンセリングについて (1) 10. 行動療法・行動カウンセリングについて (2) 11. グループエンカウンターについて 12. 心理教育について 13. 保護者への教育相談 14. 各種関係機関との連携 15. 総括 16. テスト 		
キーワード / Key word	教育相談、来談者中心カウンセリング、行動療法・行動カウンセリング		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	<p><教科書> ・授業内で配布するプリントを利用する。</p> <p><参考書> ・よくわかる教育相談 - やわらかアカデミズム・わかるシリーズ - : 春日井 敏之 (編集), 伊藤美奈子 (編集), ミネルヴァ書房, 2011 ・図で理解する生徒指導・教育相談: 佐々木 雄二 (著)・笠井仁 (著), 福村出版, 2010 ・教育相談・学校精神保健の基礎知識: 大芦 治 (著), ナカニシヤ出版, 2008 ・相談活動に生かせる15の心理技法: 「月刊学校教育相談」編集部 (編集), ほんの森出版, 2004 ・教育相談 - 教師教育テキストシリーズ - : 広木 克行 (編集), 学文社, 2008 ・教育相談の理論と実際 よりよい教育実践をめざして: 河村 茂雄, 図書文化社, 2012 ・教育相談入門 - こころの科学叢書 - : 高野久美子, 日本評論社, 2012</p>		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	<ol style="list-style-type: none"> 1) 試験の結果30% 2) レポート・提出物40% 3) 出席および授業態度30% 		
受講要件 (履修条件) / Requirements			
アクセシビリティ / Accessibility	<p>長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員 (上記連絡先参照) または「アシスト広場」(障がい学生支援室) にご相談下さい。</p> <p>アシスト広場 (障がい学生支援室) 連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp</p>		
備考 (URL) / Remarks (URL)	地域課題と関連して、長崎県・市の教育相談窓口についても概観する。		
学生へのメッセージ / Message for students	授業理解度の自己評価を導入している関係上、毎回レポートを提出して頂きます。ご意見・ご質問などはメールでお願いいたします。		

授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	教育相談の歴史と意義
第2回	学校における教育相談体制と相談の進め方
第3回	児童・生徒の発達に応じた教育相談
第4回	児童・生徒が抱える心の問題の種類
第5回	心の問題を明らかにする方法(1)
第6回	心の問題を明らかにする方法(2)
第7回	来談者中心カウンセリングについて(1)
第8回	来談者中心カウンセリングについて(2)
第9回	行動療法・行動カウンセリングについて(1)
第10回	行動療法・行動カウンセリングについて(2)
第11回	グループエンカウンターについて
第12回	心理教育について
第13回	保護者への教育相談
第14回	各種関係機関との連携
第15回	総括
第16回	テスト

学期 / Semester	2016年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 4
開講期間 / Class period	2016/09/30 ~ 2017/01/24		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20160587037702	科目番号 / Subject code	05870377
科目ナンバリングコード / Numbering Code	GEMB 12341_005		
授業科目名 / Subject	教育と社会 (身のまわりの科学) / Science in Daily Life		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	及川 大地 / Oikawa Daichi, 宮津 寿美香 / Sumika Miyatsu		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	及川 大地 / Oikawa Daichi		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	及川 大地 / Oikawa Daichi, 宮津 寿美香 / Sumika Miyatsu		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟31 / RoomA-31		
対象学生 (クラス等) / Object Student			
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	LACSメールを使用		
担当教員研究室/Laboratory	教育学部 食物学研究室 教育学部 保育学研究室		
担当教員TEL/Tel	2375		
担当教員オフィスアワー/Office hours	適宜事前にアポイントを取ること		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	私たちの「食生活」および「保育」の事項を社会的問題点も踏まえて科学的な視点から捉え、自分なりの解決策を考えます。		
授業到達目標/Goal	自ら「食生活」および「保育」に関する事項を科学的視点で捉える意識を身に付け、社会的問題点を解決するための考え方とスキルを身につける。		
授業方法 (学習指導法) /Method	本講義は一般的な講義と参加型・体験型学習を織り交ぜながら実施します。基本的には複数回の講義の後、身の回り(食生活・保育)に関する科学的テーマについて各班で背景、事象、問題点を抽出しながら、課題解決を試み、Power Point にまとめ発表してもらいます。講義では質疑応答を多く用います。		
授業内容/Class outline/Con	全16回開講のうち、前半「食生活関連」で3回の講義の後、2回の参加学習、2回の発表、1回試験を実施します。後半は、「保育関連」で3回の講義の後、2回の参加学習、2回発表、1回試験を行います。 ただし、受講人数によって発表日数を減らし、講義内容に変更する場合があります。		
キーワード/Key word	日常生活の食(食品・栄養・食品衛生)、食環境、保育、子ども、育児、家族、健康		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	資料は、LACSに掲載したものを各自必ず印刷してきてください。LACS内の資料は紙媒体で配布しません。 追加資料は適宜配布します。 <参考書>(興味のある学生のみ下記を購入してみてください。) 講談社サイエンティフィック 栄養科学シリーズ NEXT 「食品学総論」 辻英明・海老原清 編 講談社サイエンティフィック 栄養科学シリーズ NEXT 「基礎栄養学」 木戸康博・中坊幸弘 編 講談社サイエンティフィック 栄養科学シリーズ NEXT 「食品衛生学」 増田邦義・植木幸英 編 日本小児医事出版社 「保育保健の基礎知識」 巷野悟朗 監修 日本保育園保健協議会 編 八千代出版社 「現代保育と子育て支援 保育学入門」 亀谷和史 編著		

成績評価の方法・基準等/Evaluation	<p>成績評価方法 試験：40点 発表：40点 発表中の質問は1点ずつ加算する。 発表会の欠席は一日当たりマイナス5点とする。ただし、やむを得ない事情による欠席はこの対象としない。 参加・体験学習・質疑応答の取り組み：20点 <要注意> 16回開講で6回以上欠席した者は失格とする。</p> <p>成績評価基準 「試験」「発表」および「参加・体験学習・質疑応答の取り組み」で評価し、合計が60点以上を合格とします。</p>
受講要件（履修条件）/Requirements	<p>本内容に興味のある学生。 身の回りに潜む科学的事象および社会的問題を少しでも解明したい学生。 自ら考え、疑問を持ち、まとめ、発表する努力を行う学生。</p>
アクセシビリティ/Accessibility	<p>長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。</p> <p>アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006 （FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp</p>
備考（URL）/Remarks(URL)	
学生へのメッセージ/Message for students	<p>身の回りの食および保育に関して、日ごろから興味を持ち、科学的に考える意識を持ってください。</p>
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	ガイダンス 身の回りの科学（食生活の科学）（及川大地）
第2回	エネルギーになる栄養素・塩分の摂取（及川大地）
第3回	食品の保存法（及川大地）
第4回	前半 参加学習（及川大地）
第5回	前半 参加学習（及川大地）
第6回	前半発表1日目（及川大地）
第7回	前半発表2日目（及川大地）
第8回	前半試験（及川大地）
第9回	保育と子どもと社会（宮津寿美香）
第10回	子どもが育つ場（宮津寿美香）
第11回	子どもが育つ過程と育ちに関わる問題（宮津寿美香）
第12回	後半 参加学習（宮津寿美香）
第13回	後半 参加学習（宮津寿美香）
第14回	後半発表1日目（宮津寿美香）
第15回	後半発表2日目（宮津寿美香）
第16回	定期試験（後半試験）（宮津寿美香）

学期 / Semester	2016年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 3
開講期間 / Class period	2016/04/06 ~ 2016/07/25		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20160587038502	科目番号 / Subject code	05870385
科目ナンバリングコード / Numbering Code	GEMB 12361_005		
授業科目名 / Subject	教育と社会 (環境と社会) / Environment and Society		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	星野 由雅 / Hoshino Yoshimasa, 及川 大地 / Oikawa Daichi		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	星野 由雅 / Hoshino Yoshimasa		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	星野 由雅 / Hoshino Yoshimasa		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟21 / RoomA-21		
対象学生 (クラス等) / Object Student			
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	hoshino@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Laboratory	教育学部4階 4 1 5 研究室		
担当教員TEL/Tel	095-819-2332		
担当教員オフィスアワー/Office hours	木曜日以外の昼休み		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	環境と社会がどのように関わっているかを環境基本法などで大まかに捉え、具体例として環境要因がどのように環境や人間に影響を与えているのかを学習し、学校教育の中で、それをどのように扱って行けば良いのかを考える。また、ドイツおよびネパールの環境と社会との関わりを多角的に調べ、日本の環境と社会との関わりのあるべき姿を探る。		
授業到達目標/Goal	環境と社会と関わりについて、基本的な知識と理解度を高めると共に、現代社会の中で環境要因が具体的にどのように環境や人間に影響を与え、社会がそれをどのように扱って行けば良いのかを多角的に調べ、環境と社会との関わりのあるべき姿について自らの意見を述べる事ができる。		
授業方法 (学習指導法) /Method	受講者自らが課題を設定し、その課題を解決するために、教科書、配布資料、参考書等で学習するとともに、課題と課題解決のために学習した内容をレポートとし、発表する。また、学習した内容に応じてプレゼンテーションを学生自らが行う。学習内容の定着を図る目的で小テストを学生自らが作成する。		
授業内容/Class outline/Con	<p>第1回：オリエンテーションとイントロダクション。授業内で演習プリント(日本の公害)を課す。受講者自らが興味を持つ、環境問題を挙げる課題(事項と内容)プリントを課す。 【全員課題：個人用課題プリント】</p> <p>第2回：環境法規とドイツの環境事情について、星野がプレゼンを行う。授業内で授業内容に関わる演習プリントを課す。ネパール国についての調べ学習課題プリントを課す。 【全員課題：個人用課題プリント】</p> <p>第3回：ネパールの環境事情について、ゲストスピーカー(西九州大学 横尾美智代 教授)のお話。 再び、受講者自らが興味を持つ、環境問題を挙げる課題(事項と内容)プリントを課す。 【全員課題：個人用課題プリント】</p> <p>第4回：本授業で取り上げる10のテーマを選定する。テーマごとに班を編成する。班ごとのプレゼンによる発表日を決める。 星野がテーマ1の必須学習事項についてプレゼンを行う。 【テーマ2の担当班：プレゼン用7人の課題あり】</p> <p>第5回：班ごとにテーマ1について、小テスト問題(A4で1枚程度)を作成する。班ごとに作成した小テスト問題を提出する。一人約2分間でテーマ2の必須学習事項についてプレゼンテーションを行う。 【全員課題 (A4, 1枚)：テーマ2について必須学習事項1つを調べ、かつテーマ2について児童・生徒に理解させたいこと、活動させたいことを述べる。全員課題 : LACS上でテーマ1の小テスト問題の評価を投票する。】 【テーマ3の担当班：プレゼン用7人の課題あり】</p> <p>第6～第15回：第5回と同様。 第16回 定期試験</p>		
キーワード/Key word	環境基本法、環境基準、化学物質のリスク、ドイツの環境事情、環境教育		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	参考書1：谷村賢治・齋藤 寛編著「環境知を育む」税務経理協会 参考書2：及川 紀久雄・北野 大共著「人間・環境・安全 暮らしの安全科学」共立出版		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	授業中の小テスト、課題レポート、発表、定期考査を行って評価する。評価割合は、定期考査50%、授業中の小テスト20%、課題レポート20%、発表10%とし、総合点で評価する。合格基準は、総合点で60%以上とする。		
受講要件 (履修条件) /Requirements	定員を80名までとします。		

アクセシビリティ/Accessibility	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@m1.nagasaki-u.ac.jp
備考 (URL) /Remarks(URL)	
学生へのメッセージ/Message for students	他の班のプレゼンテーションにおいても、積極的に質問、意見を述べること。
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	オリエンテーションとイントロダクション。受講者自らが興味を持つ、環境問題を挙げる課題（事項と内容）を指示する。【課題：個人レポート】
第2回	班に分かれて、各受講者ごとに挙げた環境問題を選定した理由を班員に説明する。次に、挙げた環境問題の内容を理解するために必要な学習事項（法規や関連事項）を挙げる課題を指示する。受講者から質問があれば、学習事項の例とその内容について説明する。【課題：個人レポート】
第3回	班に分かれて、各受講者ごとに学習事項（法規や関連事項）を発表し、班員全員が必須と考える学習事項を選定する。班ごとに必須となった学習事項を理由と共に発表する。クラス全体での必須学習事項を受講者間の議論により選定する。必須学習事項について各受講者が学習してくる。（特別講師：横尾美智代）【課題：個人レポート】
第4回	班ごとに必須学習事項について学習してきた内容を班内で各受講者が発表を行う。班内でテーマを1つに選定し、その内容についてクラス全体にわかるように説明するための準備を行う。
第5回	各班ごとに必須学習事項1つについて、発表（1） 教員による補足説明。
第6回	各班ごとに必須学習事項1つについて、発表（2） 教員による補足説明。
第7回	前回と前々回の授業で取り上げた必須学習事項に関する小テスト 各班ごとに必須学習事項1つについて、発表（3） 教員による補足説明。
第8回	各班ごとに必須学習事項1つについて、発表（4） 教員による補足説明。
第9回	各班ごとに必須学習事項1つについて、発表（5） 教員による補足説明。
第10回	前回と前々回の授業で取り上げた必須学習事項に関する小テスト 各班ごとに必須学習事項1つについて、発表（6） 教員による補足説明。
第11回	各班ごとに必須学習事項1つについて、発表（7） 教員による補足説明。
第12回	前回と前々回の授業で取り上げた必須学習事項に関する小テスト 小テストの解説。 各受講生が課題とした法規、環境と社会との関わりを示した具体例の説明レポートの作成を指示。 【課題：個人レポート】
第13回	班に分かれて、各受講生が作成した説明レポートを班内で発表。その後、班の代表者がクラス全体に対して説明レポートを基に発表。
第14回	班に分かれて、各受講生が作成した説明レポートを班内で発表。その後、班の代表者がクラス全体に対して説明レポートを基に発表。
第15回	班に分かれて、各受講生が作成した説明レポートを班内で発表。その後、班の代表者がクラス全体に対して説明レポートを基に発表。
第16回	定期試験